

1. 単元名 校内発表会:探究成果の発信と相互評価によるプレゼンテーション能力の向上

2. 本時の概要

本時は、中学1年生がこれまでの「総合的な学習の時間」で取り組んできた探究成果を、ポスターを用いて他者へ発信する「校内発表会」である。生徒は「グループA(出席番号1～19)」と「グループB(20～38)」に分かれ、1人3分の持ち時間でプレゼンテーションを行う。発表後は2分間の相互評価時間を設け、評価シートに「良い点」と「もっと良くなる点」を記入して発表者に渡すサイクルを繰り返す。また、本発表会は保護者への公開授業として設定されており、生徒は外部の視点を意識した緊張感のある場での発表を経験する。

生徒が探究した内容を単なる知識の蓄積で終わらせず、他者に分かりやすく伝える表現力を養うことが重要である。スライド資料で提示されている「目線」「声」「スピード」「時間」の4項目を意識させることで、プレゼンテーションの技術的基礎を定着させる狙いがある。また、相互評価を通じて他者の工夫を吸収し、客観的な視点から自分の課題を把握させることは、次回の「テーマ別発表会」における質の向上に不可欠である。保護者の観覧という「公」の場を設定することで、責任感を持って発表に臨み、自己の成長を実感させる機会としたい。

3. 本時の目標

- **プレゼンテーションの完遂:**「目線」「声」「スピード」「時間(3分±10秒)」の4項目を具体的に意識しながら、準備してきたポスターを用いて自分の探究成果を他者に対して堂々と発表し、最後までやり切ることができる。
- **多角的な相互評価の実施:**他者の発表を真摯に聞き、評価シートに「良かった点や工夫」だけでなく「より良くするための改善点」を具体的に記入することで、プレゼンテーションを客観的に分析し、建設的なフィードバックを行う。
- **振り返りと次への意欲向上:**他者からの評価シートの内容を真摯に受け止め、自分の発表の強みと課題を明確にすることで、次回のテーマ別発表会に向けて、より質の高いプレゼンテーションを目指そうとする態度を養う。

4. 本時の準備・使用教材・参考文献

- 教員用提示資料:
 - 授業スライド 第20回
- 使用教材(副教材):
 - 岡本尚也(2024)『ゼロから始める探究活動 課題研究メソッド ZERO』新興出版社啓林館

5. 本時の展開

時間	学習活動	指導上の留意点・教員の支援
【1時限目】		
5分	1. オリエンテーション ・本時の内容(発表会の流れ、評価シート、今後の予定)を確認する。・教卓上の評価シートとクリップペンを保護者に案内する。 ・グループ分け(A:1～19、B:20～38)と発表順を確認する。	・スライドを用いて視覚的に流れを提示し、生徒の不安を取り除く。 ・保護者がスムーズに観覧・評価できるよう、教員が適切に誘導し、評価用具の配布を徹底する。
5分	2. プレゼンテーションの心得確認 ・「目線」「声」「スピード」「時間」の4つのポイントを再確認する。 ・「3分±10秒」という時間制限の重要性を理解する。 ・ポスターをパーテーションへ貼り付ける準備を行う。	・単に話すだけでなく、「聞き手の反応を確認しながら話す」等の具体的な技術を想起させる。 ・掲示作業が滞らないよう、グループごとに迅速な移動と準備を促す。
45分	3. 発表会(前半:10グループ程度) ・1人3分で発表し、終了後2分で相互評価を行う。 ・発表者は決裁箱を持って評価シートを回収する。 ・次の発表者はその間にポスターを貼り替え、準備を整える。	・タイマー等を用いて時間を厳守させ、スムーズな進行を管理する。 ・評価シートには「自分の氏名」を必ず書かせ、責任ある評価を促す。 ・保護者の評価記入も適宜サポートする。
【2時限目】		
40分	5. 発表会(後半:残りグループ) ・前半同様、3分発表・2分評価のサイクルを継続する。 ・全生徒が発表を終えられるよう調整する。	・遅延が出ている場合は、交代時間を短縮する等の指示を出す。 ・発表が終わった生徒が私語に走らず、最後まで他者の発表に集中できる環境を維持する。
5分	6. まとめと次回予告 ・次回の予定を確認する。 ・今回もらった評価シートを参考にプレゼンの質を向上させるよう伝える。	・「やり切った」という達成感を肯定しつつ、評価シートを読み込むことの重要性を強調する。 ・使用したポスターや備品の片付けを指示し、教室を復元する。